月山から旧『道智道（どうちみち）』単独全徒歩スルーハイク記録

（月山⇒志津⇒大井沢⇒古寺⇒朝日川⇒旧萱野集落跡⇒茎（くき）ノ峯峠⇒標高 580m 地点⇒黒鴨）

2017(H29)年 12 月 1 日(金)

大沼　香

主目的は、旧「道智道」(道智上人が開削したもう一つの湯殿山参詣・参拝の道）を一気通貫で歩きたく、もう一方で月山お秘所の東補陀落にも行きたく計画しました。当初は白鷹町黒鴨からスタートする予定であったが、気象状況を勘案し、より標高の高い月山の方から繋ぐ事とし、以下、2017（H29）年８月 26 日（土）～８月 28 日（月）２泊３日間―――旧「道智道」直接の中身は１泊２日間―――の実施結果について、記録を保存するために要点を整理したものです。

＜日単位の概要＞

前日；2017（H29）年８月 26 日（土）は、自宅を出発し、バスを乗り継ぎ、月山八合目に１２時４５分到着し、まずは東補陀落を往復しました。密教は月山金胎両部界において、金剛界東補陀落の象徴で、ほぼ垂直に立ち上がっている岩峰に出会って来ました。幸いにも、秋の峰入り（羽黒修験道山伏修行）のために数日前に道の下刈りをしていたので助かりました。この日は、月山弥陀ヶ原の中の宮御田原参篭所に宿泊しました。

なお、金剛界と対を成す胎蔵界の西補陀落には、前年の 2016（H28）年 10 月 13 日（木）に行っております。宿泊先の同参篭所において、前年同行した神職の吉住さんと仕事中に再会する事が出来たが、予期せぬことでありとても幸運を感じました。

これで、念願であった月山の金胎両部界のお秘所を参拝する事が出来て満足しています。

・・

１日目；

2017（H29）年８月 27 日（日）は、気象予報によれば、地上天気図の高気圧、高層天気図における等高度線の盛り上がり具合といい終日快晴の予報でありました。そのとおり、昨晩は雨であったが、当日は早朝から快晴となりました。途中、九合目小屋管理人の工藤さん（上記西補陀落同行）とも再会しました。月山山頂からは 360 度、名だたる山塊・峰々が丸見えでありました。夏は雨模様でなかなか天気に恵まれなかった事から、“待ってました”とばかりに、羽黒口、湯殿口、西川口から老若男女の大勢の登山者が数珠続きで登っていました。月山には１０数回以上は登っているが、初めて見る光景であり、おそらく、１千人くらいは山頂を踏んだのではないだろうか。これはオーバーではありません、ちょっと想像出来ないと思います。

さて、問題意識として残っているのが、後記９ページの図の中で、旧「六十里越街道」と旧「道智道」の合流点Ｐ１からアンテナＰ２へ至る大平地区・弓張平公園内の旧「道智道」古道ルートはどこなのかという事であります。全体から見れば極短い区間で、どうでもいいことですが、一応は後記（16・17 ページ）で整理して見ました。

この日の宿は大井沢中村地区の江戸屋旅館にしました。まずは、隣接する大井沢温泉の湯ったり館のお風呂に入りくつろぎました。宿は私一人のようでしたが、快く泊めさせて貰いました。

同館のご主人佐藤さんは、同古道に精通している方で、自ら歩いて、探査・調査を行っており、貴重な話を沢山伺い大変参考になりました。大井沢地区西側の山際に同古道が、所々途切れてはいるもののまだ大方残っているという事でした。機会があったら歩いて見たいと思っています。また、旅館業を開いてから本年を以って１００年になった事を踏まえ、「江戸屋旅館創業 100 周年記念」誌を作成した、という事で見せて貰いました。私は２代目ではあるが、両親と私達家族の事を何らかの形で子供達に残したいと朧気に希望しているが、素晴らしいものを拝見し、大いに参考にしたいと思っています。

２日目；

2017（H29）年８月 28 日（月）は、予報のとおり曇りでした。（今回と逆のコースだと、この日が月山で、おそらくガスで見えないか、雨模様だったかもしれない。）

印象に残るのは、12 ページに記述するが、古寺より 800m ほどの西俣川沿いに湯殿山碑がある事です。20 年くらい前に古寺を訪れた時に、土地の人に伺い一度訪れた事があったのです。正確な場所の記憶が薄れていたが、11 ページに記述する古寺の古老から再確認して訪れたものです。道路（車道）上からはまったく見えません。建立年の確認は失念してしまいましたが、多くの寄進者の名前が裏側に刻字されています。

そして、朝日川越し（木川ダム上流部）が問題となります。白鷹町の伊藤隆さんから事前に聞いていたので、木川ダム上流の発電所（山形県企業局 朝日川第二発電所？）に至る構内用橋梁を通って右岸に渡りました。

ここまでは難なく順調ですが、さてさて同古道へはどこを辿ればよいのか、皆目見当が付きません。直感、送電線鉄塔の方に階段を上ったら鉄塔脚部に至りました。ここで思案したが、北東の方に薮を漕いだような切れ目があったので覗いたら境界杭の設置場所でした。そこから川の方角を見ると比較的平坦な杉林になっており、そちらではないかと思い足を延ばしたが、結局の処、古道らしきルートは発見出来ませんでした。旧吊橋崩落地点（13 ページ）は分っている（過去には、黒鴨からこの地点までは２回往復している）事から、GPS 機搭載地形図で確認し、一旦小さな沢に降りてその方向によじ登ったら同古道に合流出来ました。その点から戻るように先ほどの鉄塔の方まで古道を歩いて、出口（入り口）を確認しました。そこからは（戻って）同古道を辿り、ついに旧吊橋崩落地点に到達しました。後は知り尽くしたルートであり、不安はまったくなく黒鴨へ向かいました。なお、発電所から旧吊橋崩落地点までは、道形からして古い巻き道があった状況でした。目的は何だったのか？　なぜならば、崩落した吊橋がそこで両岸を繋いでいたことから、そこから発電所までの巻き道は同古道では無いからです。

旧萱野（かやの）集落の所は、細部は 13 ページのとおりであり、事前の私的調査の中で、明らかに同古道であったと思われる道筋を確認していたので、薮漕ぎではあったが今回もそのルートを歩きました。

その後は、途中、前出伊藤さんから得ていた情報を確認しながら黒鴨を目指しました。

15 ページに記述した標高 580m地点の７基の石碑群についてであります。2016（H28）年８月 26 日（金）付山形新聞にも報道された（補完資料－４の図 H4-3）が、見事な石碑でした。さらには、今も他所に現存する社殿があったということ（細部は後記の【補完資料－１】）ですが、当時の状況を想像するのも楽しくなりました。

そして、ついに黒鴨の蔵高院の前に到達し、ここに今回のスルーハイクのゴールとなりました。

・・・

＜完歩後の感想＞

すばらしい古道でした。道智上人（どうちじょうにん）（大井沢旧大日寺中興の祖）が開削し、多くの湯殿山信者や修験者（行者）が信仰の道、修行の道として歩き、また、生活道として歩かれて、踏み固められて来た古道です。私も上書き出来て、往時の時空にタイムスリップしたようで感無量のものがありました。

事前に、前出伊藤隆さんを何回か訪問し、道の状況に係る情報を得ていた事から、通常取り組む向き（黒鴨→大井沢→志津）とは逆になりましたが、不安にかられることなく無事所期の目的を達成出来ました。

同伊藤さんからは、古道の状況、史跡・石碑の安置場所とその設置事情、今は廃村となった集落のことなど、諸々の歴史的背景に係る情報を沢山貰っており大いに助かりました。

さて伊藤さんからは、最も難儀を要した課題の区間は、茎(くき)ノ峯峠から朝日川木川ダム上流部発電所までの間と伺いました。この区間はまったくの山中を貫く古道であり、林道とも複雑に交差していました。伊藤さんと白鷹町史談会長の丸川さんは、そこに何回となく通い、藪を漕ぎながらまずは古道筋の探査・発見・確定の作業を行い、道沿いの草木の下刈り、難所へのロープの取り付け、崩落個所の道普請等の整備に汗を流したそうです。そのような多大な労力と所要の経費を以って整備されたのです、篤く敬意を表します。お陰様で安全に歩く事が出来ました。本当にありがとうございました。

さらには、前出お二人を初め白鷹町史談会の皆様、そして有志の方々も助力されたと聞いております。そして皆様方は湯殿山まで既に２回も歩き通して道を固められたのです。

危険を感じるような個所はまったくありませんでした。

さらには、2016（H28）年２月 13 日（土）に開催された「白鷹町史談会研修会」に参加しておりましたが、その時、皆さんが語っていた熱い思いと決意がとても力になりました。

私は、過去には黒鴨から旧吊橋崩落点（13 ページ）まで２回は往復していたが、この度、旧「六十里越街道」との合流（追分）点（９ページ P1 点）から黒鴨までの同古道を一気通貫で歩けたことは、格別の感慨があります。同古道の復元に携われた皆様方のご努力に甚深なる敬意を表し、重ねて感謝を申し上げます。

この同古道には、私がまだ掴み切れていない歴史が沢山残っている気がしています。もう少し、現地に通って見たいと思っています。

また、黒鴨から茎(くき)ノ峯峠までの古道沿いの距離は約５㎞強ですが、この区間には蔵高院の即身仏（ミイラ）の発掘個所を初め、後述する種々・沢山の歴史遺産があります。この短い区間に真に貴重な文化財が密度の高い状態で眠っているのです。関係者も考えているようですが、大げさな観光客誘致とまではいかなくとも、今流行(はや)りのクアオルトコースとして十分な価値を有するのではないでしょうか。

この同古道の街道沿いに係る史跡等に係り、私が特に関心を寄せた所について補完資料として後記します。

以下の図柄（国土地理院地形図を切り取り）中の**赤い線は、持参・携行したガーミン社のＧＰＳ機器（オレゴン 650/地図搭載・緯度経度＆タイムを自動記録）による踏査結果の軌跡（足跡）**である。その他の桝状のマークはＧＰＳ機のボタン押打で指定した種々のウェイポイントを表示している。月山弥陀ヶ原（八合目）から黒鴨までの歩行距離計は約 59.7km となった。内旧「道智道」のみは 42.9km。

◎前日；2017(H29)年 8 月 26 日(土)
　／月山八合目は曇り、時々濃い霧

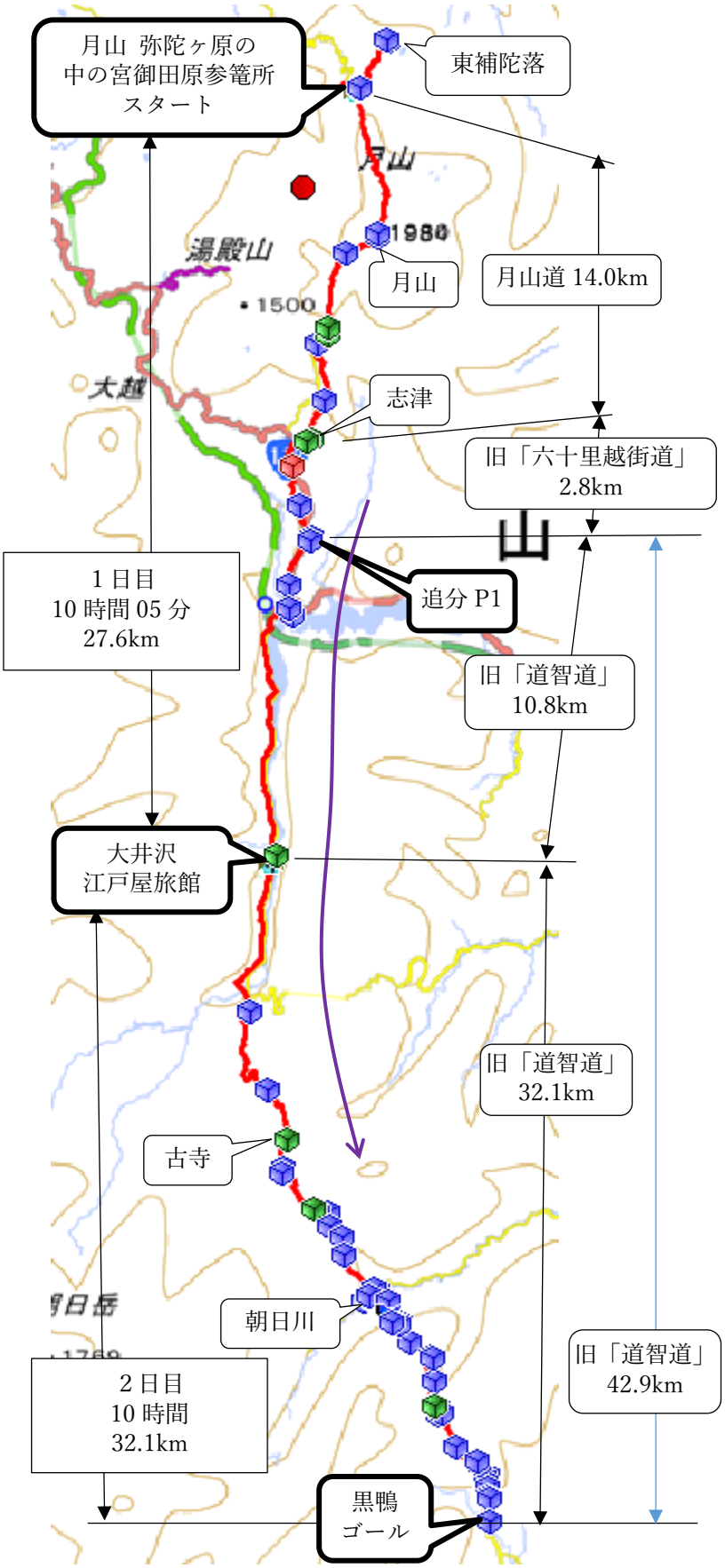
山形→（バス）→鶴岡→（バス）→羽黒山→（バス）→月山八合目
バスを下車した後は、東補陀落を往復し、『月山神社 中之宮 御田原参篭所』に投宿した。

◎１日目；2017(H29)年 8 月 27 日(日)
　／１日中快晴

中之宮⇒月山⇒志津（昼食）⇒大暮橋（月山湖）⇒大井沢中村と歩き、江戸屋旅館に投宿した。
（歩行平均時速 2.8km/h）

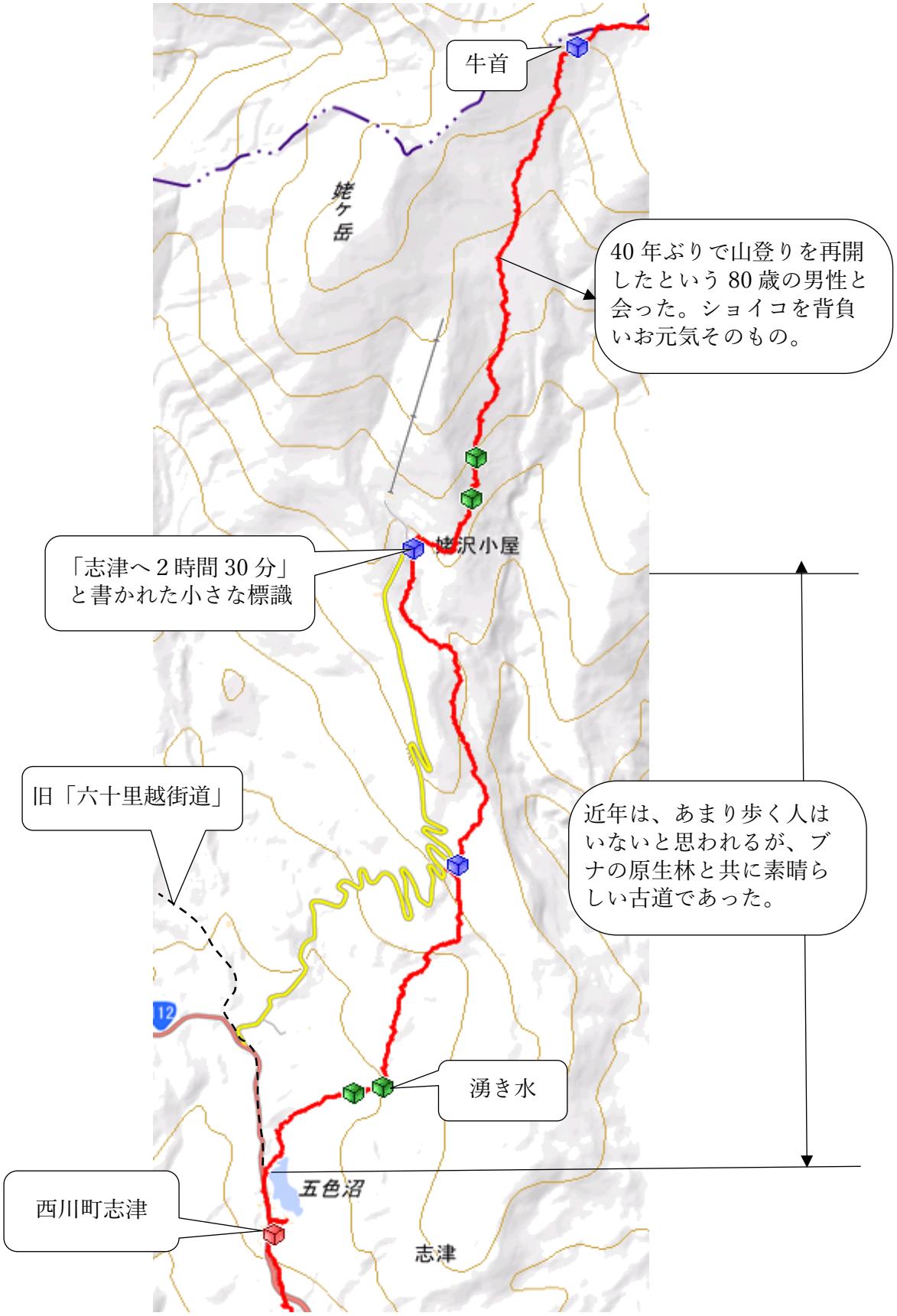
◎２日目；2017(H29)年 8 月 28 日(月)
　／曇り

中村（江戸屋旅館）⇒（地蔵峠・標高約 650m）⇒古寺⇒（山毛欅(ブナ)峠・約 720m）⇒朝日川横断(橋)⇒(茎(くき)ノ峯峠･約 880m)⇒白鷹町黒鴨と歩いた。ここからは、バス時刻との兼ね合いで荒砥駅までタクシー利用、荒砥駅→（バス）→山形駅前と繋ぎ、帰宅した。(歩行平均時速 3.2km/h)



＜　区間毎のポイント　＞

東補陀落
前日の 8 /26（土）
中の宮 13：00 発
東補陀落着 14：00 着
〃 14：20 発
中の宮 15：50 着
＜片道 2.0 km＞
月山 弥陀ヶ原の
中の宮 御田原参篭所
前日 8/26(土)泊
---
1 日目；8/27（日）
6：35 発(スタート)
西補陀落
2016(H28)/10/13 済
山頂でのヘリによる
荷揚げ・荷下ろし
月山
1700
牛首
月　山　神　社
8 /27(日) 8 ：35 着
9 ：15 発
同社本宮に参拝した


牛首
姥ケ岳
40 年ぶりで山登りを再開したという 80 歳の男性と会った。ショイコを背負いお元気そのもの。
姥沢小屋
「志津へ 2 時間 30 分」と書かれた小さな標識
旧「六十里越街道」
近年は、あまり歩く人はいないと思われるが、ブナの原生林と共に素晴らしい古道であった。
12
湧き水
五色沼
西川町志津
志津

五色沼
志津
志津
12:45 着
（昼食）
13:25 発
旧「六十里越街道」
（古道）
大平
P１；旧「六十里越街道」と
旧「道智道」との合流点
○追分石が乗っていた“日本廻國
同行”の刻字がある基礎石のみ
「旧道智道」
（以下黒鴨まで）
112
P２；アンテナ
月山ＩＣ
杉林の中
大暮橋
月山

旧大日寺跡（現大井沢湯殿山神社）の代参塔群（他の石碑群も）は何回見ても感激します。

道智上人之塚

1文字に米一升が入るという石碑

大井沢温泉
湯ったり館

江戸屋旅館（泊）
8/27（日）16：40　着

2日目；8/28（月）6：35
同館発　曇り

8：45　古寺

・古寺の本村に居住の 1 軒に立ち寄り、古老から聞いた。

・「現在、ここの集落に人が居住するのは、私と古寺鉱泉の 2 軒のみ。昭和 7 年生まれの 85 歳、一人暮らし、除雪は昔からなし、街（里）に行く時はスノーモービル利用。最大時は 27 戸があった。」

古寺
613
『湯殿山碑』
右写真のとおり。車道より東側に 10mほど下ると左岸に湯殿山碑がある。（前記古寺の古老によると、古道はここから対岸に渡り、南へ尾根を登ったとのこと。）
西俣沢
714
792
山毛欅峠
731
山毛欅峠約（720m）
林道分岐
748
794
林道分岐点から舗装車道合流点まで所々背丈ほどの藪あり。
747.1
604
車道合流点
石沢

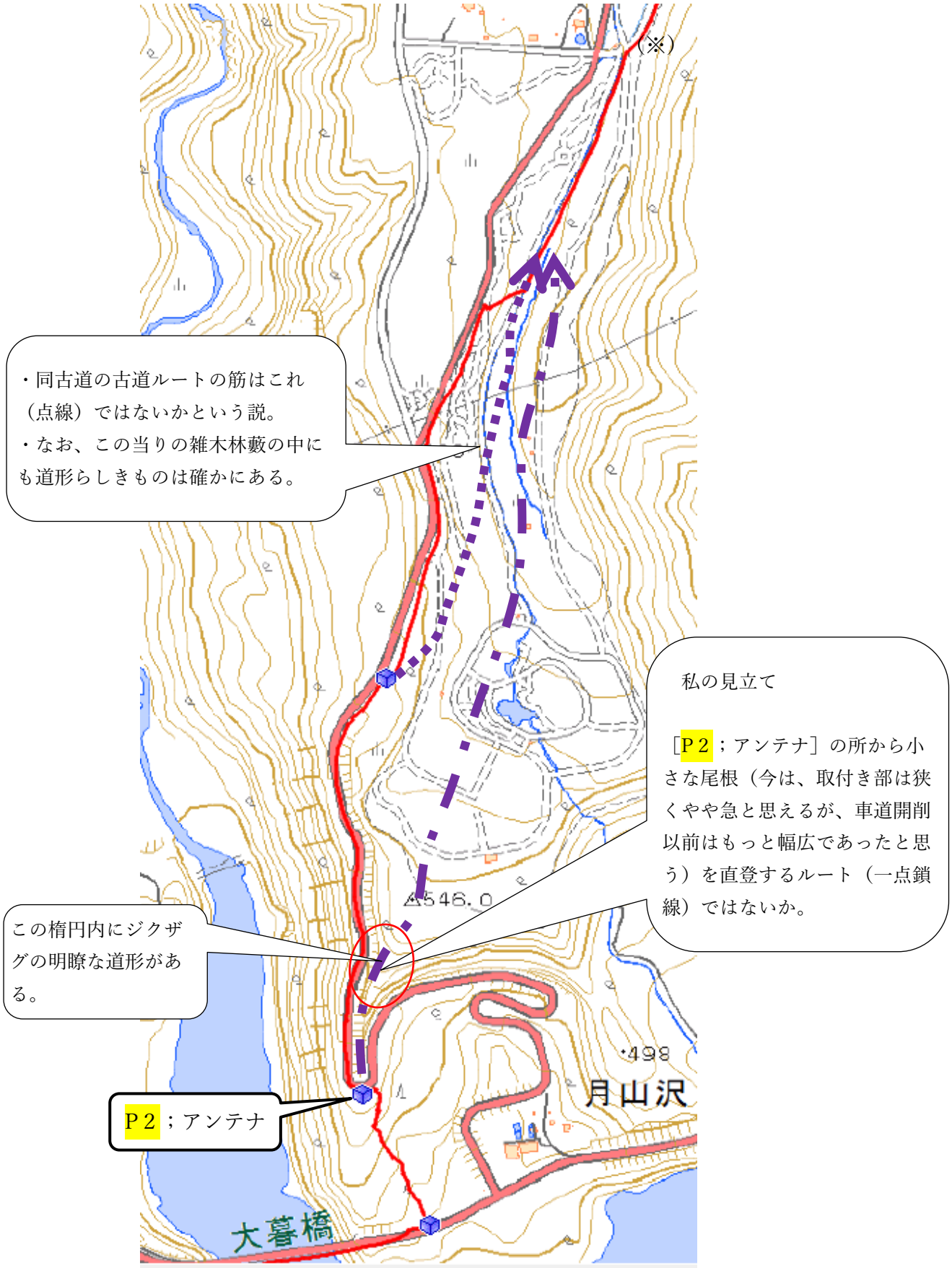
車道合流点
六郎山
大沢
左岸旧吊橋への降り口
高台に湯殿山と山神碑
発電所
木川ダム
12：00
旧吊橋崩落点
（昼食）
朝日川／橋
木川沢
林道終点
ここから、下流に向かった場合、300m程は、杉木間伐作業のために、古道に上書きするようにブルドーザーが入って、下流側古道への入り口が非常に分かり難い。
上側の軌跡は、当初、正規の古道ルートを見付けられずに探査した足跡
旧萱野集落跡
旧萱野集落跡の拡大
藪の中に明瞭な道形あり
すり鉢状の池
古道が残るここを歩きたかったが、ツタ藪で北方に迂回した。
緑色の点線内は、段々となっており、棚田の跡がはっきりしている。
明瞭な道との合流点
湯殿山碑

旧萱野集落跡
タバネ沢
旧林道終点
杉の大木
大木とは胸高周囲2ヒロ位の太さ（1ヒロとは、大人が両手を広げた長さのことを言うが、通常は約1.5メートルの長さを言う。）
修験者（行者）や林業従事者の道しるべとなった杉の大木が道沿いに点在している。
白鷹町
茎ノ峯峠
14：55 茎ノ峯峠
（約 880m）
尖山
峠の「南無阿弥陀仏」碑
「右湯殿山　左あさひみち」
の追分碑
光明海上人墳墓（ミイラ発掘）の地

1基は後方(北)に倒れている
580
〖一大聖地・聖域〗
細部は補完資料
山神塔
標高 580m地点の石碑群
大神宮×3、金華山×2
文殊塔×1、金毘羅山×1
墓石と石造小社
馬頭観音
庚申塔等
荒山
黒鴨
黒鴨
追分石
「右荒山とちくぼ　左湯殿山」
(くぼは欠損)
8/28（月）16：35
黒鴨着（ゴール）
月山八合目中の宮～黒鴨までの
二日間の累計　59.7 km
内旧「道智道」のみは 42.9km

❑　９ページに係る同古道ルートの検討（拡大図）　その１

❏　９ページに係る同古道ルートの検討（拡大図）　その２



＜　終わりに　＞

旧「道智道」の存在を最初に知ったのは、２０１２（平成２４）年の秋、西川町交流センター　あいべ・町民体育館敷地内で菊祭りが開催されたことから鑑賞に行った折り、同センター内に掲示されていた旧「道智道」に関するパネルを目にしたことです。他の歴史街道をスルーハイクしていた頃で、自然と釘付けになりました。ここから関心を強めて動き始めたのです。

古道とはいえ、ただの道だけであれば、思い入れが深まらなかったと思いますが、【補完資料－４】26ページ以下の新聞記事に接したこと、2016（H28）年２月 13 日（土）に開催された「白鷹町史談会研修会」に参加したこと、などから一気通貫歩き旅への思いが強まり、この度実践したということです。

これまで吾が山形県内に係るものとして、次も全て単独歩行ですが、旧「六十里越街道」は一気通貫の往復（鶴岡→山形、太平洋は閑上→旧六十里越街道→日本海は湯の浜)、イザベラーバードが歩いた旧「越後米沢街道・十三峠」はほとんど、旧「羽州街道」は全区間（福島・桑折（こおり）→山形→秋田→青森・油川)、その他の歴史街道（古道）を歩いている中で、この旧「道智道」は地味ではあるが、要所に追分石他たくさんの石碑が残されています、想像力を掻き立てられる史跡が道沿いに連なっておりとても楽しくなります。

特に【補完資料－１】に記述した内容は、陰陽五行説と易経に絡む内容になっています、現代では有り得ないと思われるかもしれないが、江戸時代までは、神仏混交の時代であり、生活に密着していました、単なる迷信ではなかったのです、それは命を懸けた真の信仰・祈りになっていました。今世の私は、想像力醸成の遊びに使っていますが・・・。

私の探求心・好奇心を誘発してくれた皆様に深く感謝しています。ありがとうございました。

（完）